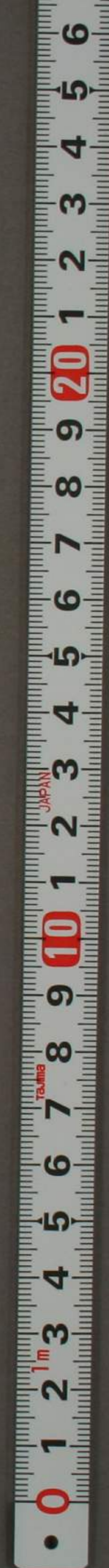


改正
日本
人國全圖
下

ル 3
3066
21



ル 3
3066
2



人國記卷之下編目

山陰道八國

- 丹波一
- 丹後三
- 但馬四
- 因幡五
- 伯耆六
- 出雲七
- 石見八
- 隱岐九

山陽道八國

- 播磨十
- 美作十一
- 備前十二
- 備中十三
- 備後十五
- 安藝十六
- 周防十七
- 長門十八

南海道六國

- 紀伊十九
- 淡路二十
- 阿波廿一
- 讚岐廿二



伊豫^{廿四}。土佐^{廿七}。

西海道九國并二島

筑前^{廿九}。筑後^卅。豐前^{卅一}。豐後^{卅三}。

肥前^{卅五}。肥後^{卅八}。日向^{卅九}。大隅^{四十二}。

薩摩^{四十四}。壹岐^{四十七}。對馬^{四十七}。

山陰道八國

出雲^{卅六}。美作^{卅九}。備前^{四十一}。備後^{四十二}。

美濃^{四十三}。信濃^{四十四}。上野^{四十五}。下野^{四十六}。

山陽道八國

美濃^{四十三}。信濃^{四十四}。上野^{四十五}。下野^{四十六}。

人國記卷之下

山陰道八國

丹波

當國の風俗ハ人の氣懦弱ナリ。面々各々不
己と自憐シ。人の罪と訛人の是を去。清いひと
小婦人の心根ナリ。百姓ハ農業を專とせし
高費を相かひて。家の富を求。越て勇氣す
くましく。諺はよく。昨日の味方も今日ハ歌と
世より身一の丸をちりとり。



人國記卷下

○丹後

當國の風俗ハ上下男女ともに万人の内一人も好
 人あり。不直不しく。氣強却て勇を寡。適勇
 われ。邪智あり。若又實ある者ハ愚昧あり。用不
 不協と云。

○按に當國ハ北海と云けて。南に山と負を。入海多
 しく。海の温和不列わり。心寒すあれども。北陸
 小あぬる事。

丹後國圖



○丹後國圖

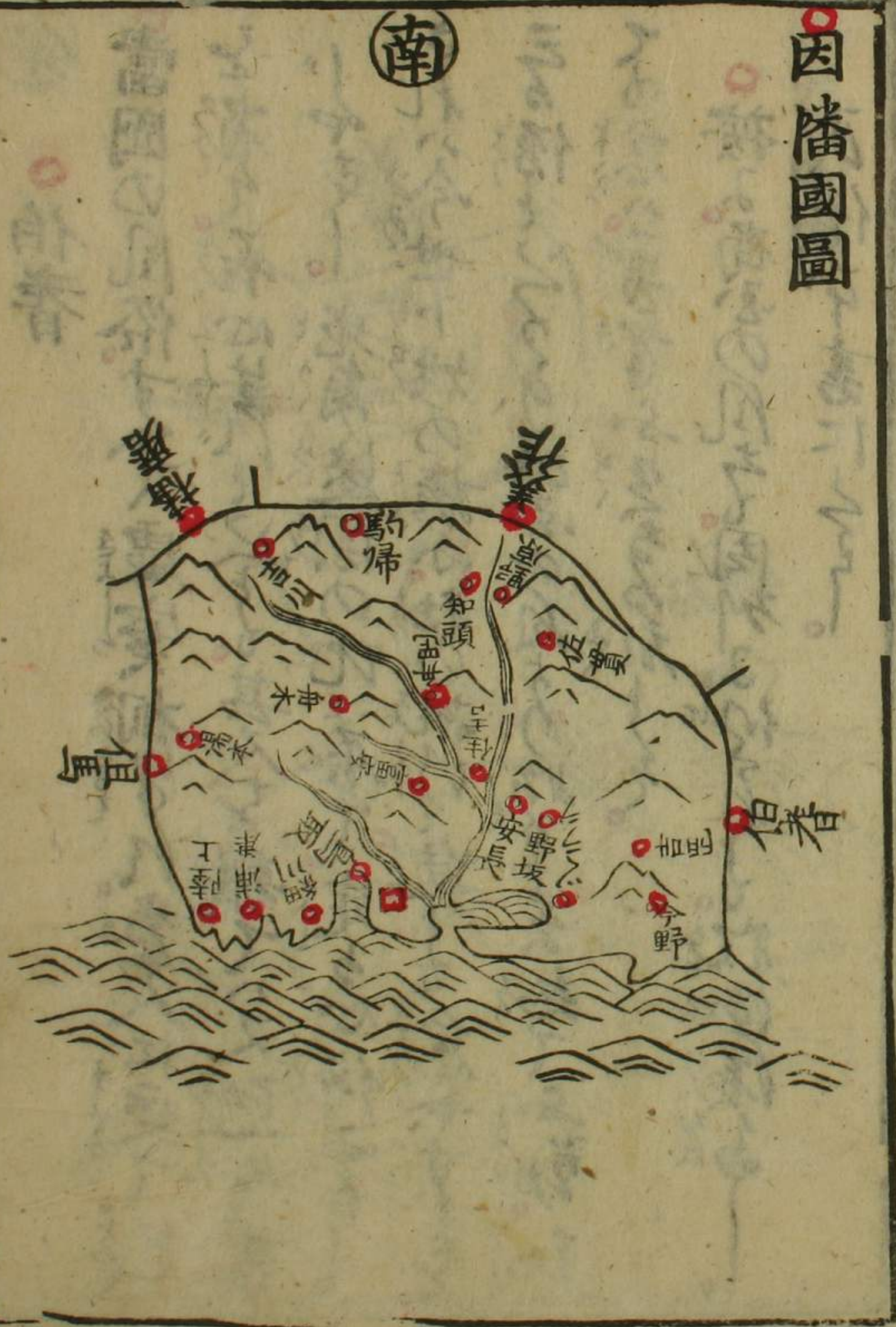


因幡

當國の風俗ハ上智頭邑美の三郡ハ實ハ
 而之勇ありて物を不愛高草氣多法味巨濼の
 救郡ハ傍不して邪智あり武士ハ利欲不拘得の
 くに従風多し一國の内々此風俗の變遷天
 性自然の理ありとて

按に當國北海をうくることとも南志山深し並の
 玉ありもたちこもりたる玉あり寒きも流り民俗
 海濱と山岳と何れのものも愛異ありあり

因幡國圖

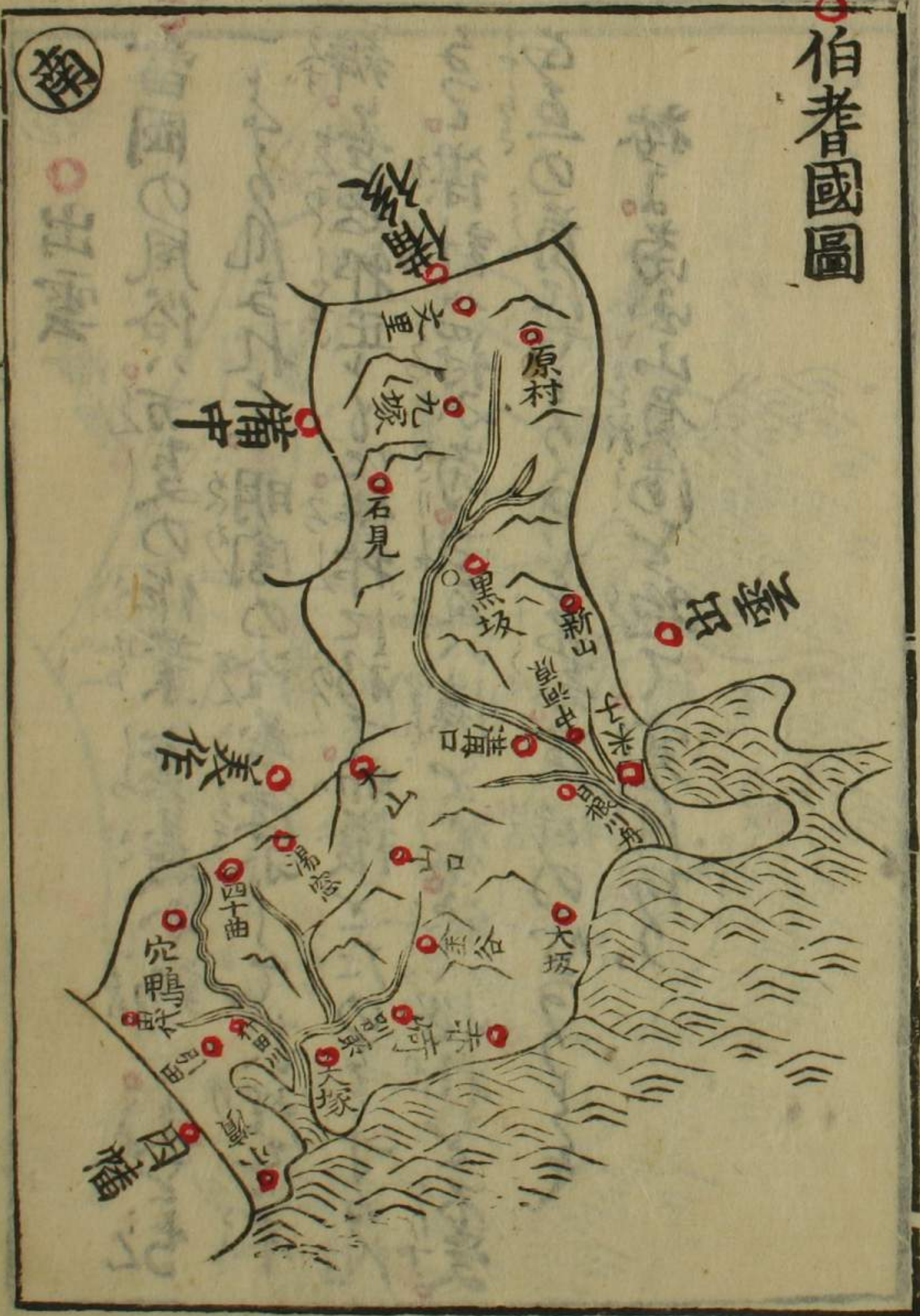


因幡國圖

伯耆

當國の風俗すくて虚実相半に貴人に変更。己
 と省く若心生れんと。其人を離てハ又忍心之憂
 じやま。兎角迷國の比居て定り心終あや
 されハ今世下姓の積ふ物の扱ひ進も怠やすこと
 三万倍と云る。は玉の風より始ると云。怠て不勤。物
 ても怠ハ勇守ふ多かる所と云。
 接よ尚公の風も國列に似れも。松浦原多
 民俗本書に云り。

伯耆國圖



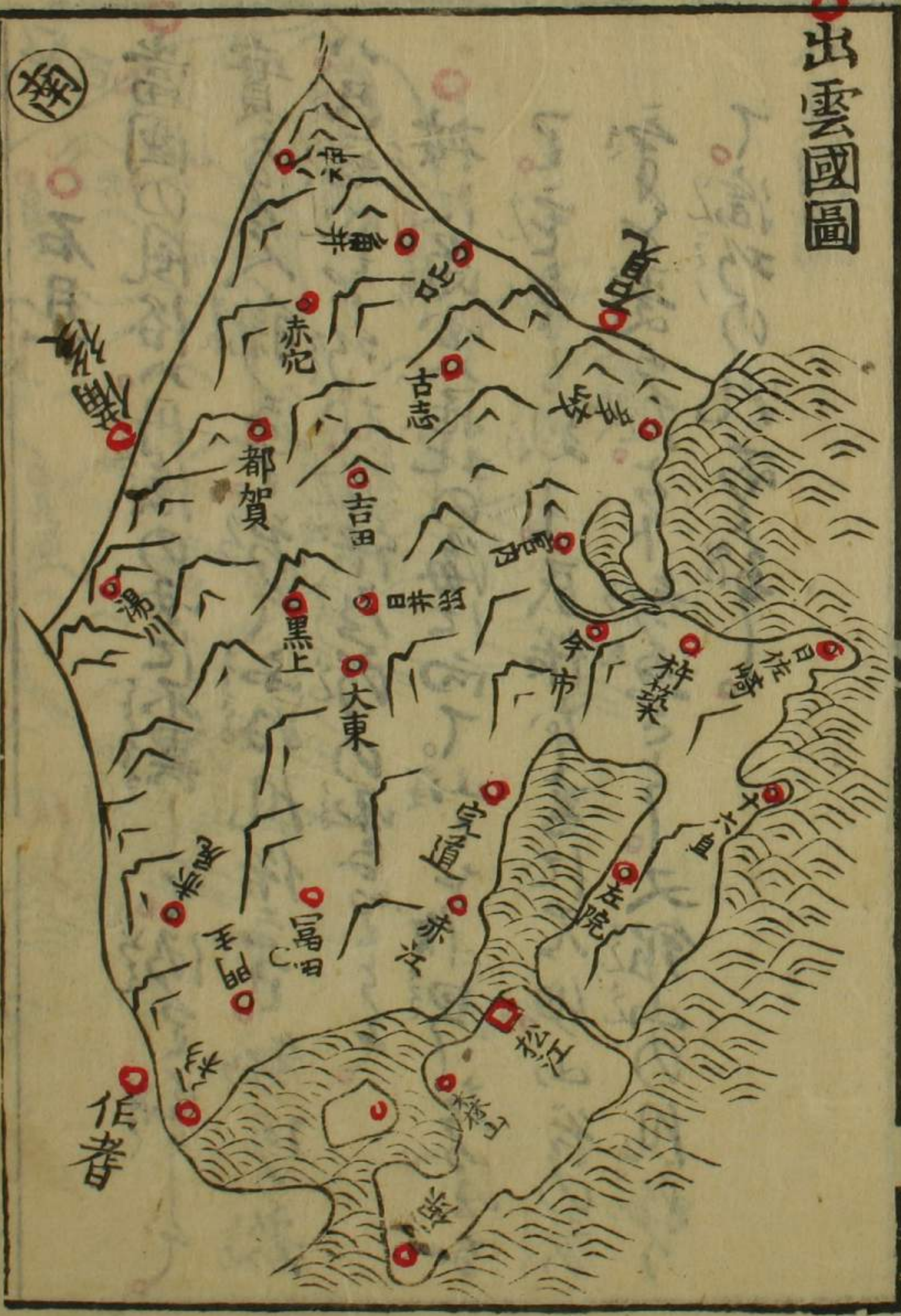
南

五

○出雲

當國の風俗ハ万支の作業實義不勤^{しつら}之^をち
 一と千の凡なれども。明國の禮義^{れいぎ}津^つ不^ふ其^{その}理^りを不^ふ
 辨^{わづ}昔^{むかし}惡^{あく}邪^{じや}正^{ただ}にもに佛^{ぶつ}神^{しん}に祈^{いの}て。加^か後^ごとたのこす凡^{たゞ}
 ち^もつ。謀^{まう}計^{けい}ハ四^よ符^ふ不^ふ尚^{たう}。正^{ただ}直^{ちか}ハ情^{じやう}を蒙^{まう}。神^{しん}ハ祀^{まつ}れと不^ふ受^う
 互^{たがひ}の首^{くび}にやとらるゝと不^ふ名^な。巨^こ時^じの心^{こころ}ちりんとそ
 按^おふ。南^{みなみ}山^{やま}負^お山^{やま}負^おと抱^{かか}て。寒^{さむ}風^{かぜ}あり。

○出雲國圖



出雲國

〇

石見

○當國の風俗ハ丹後の土に不異しく。俗を變じず。實ちる人務まじ。皆て不好風俗を。智阿の老ハ只悪心と巧む。言徳及所の風をこととせ。

○按に尚必八西北の海に向て。山と下見たるを。己。之をりも烈し。民俗本言に足ゆ。山岳の表。守り受り流と下多きと。又銀山の風移りて。流巧の風あり。

石見國圖



南



○隱岐

當國の風俗ハ柔弱にして放逸なり。知夫一郡の
實義ハ一々たのそ有存あり。其餘ハ風に去るがよ
葉のこころ若くは石に不拘さびさ。冷風あり。海
を隔たれども石別より上りて上の風とそ
按に比叟雲州と云る。三十六里。北海中の傍也。
寒雪を甚し。

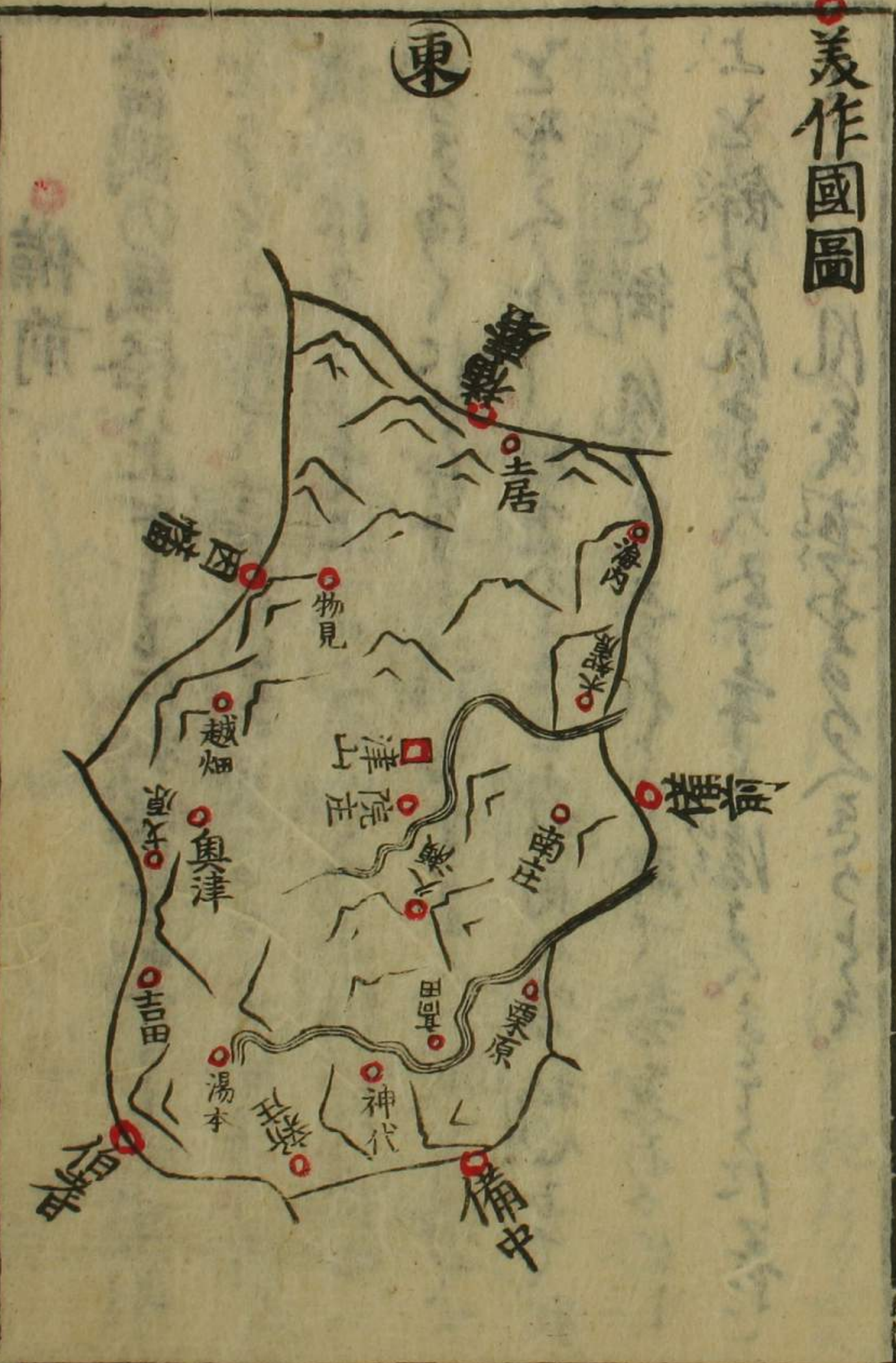
國の記

○義作

當國の風俗ハ卑劣なり。欲心深し。譬ハ人の物を借て。夫を不返を却て。手柄不すりやうの凡。片意地なり。人の教訓を不入す。邪多に信て。過を文されども。其中にも。化しやすき。かきも。ハたのり。石州。よ。ま。ま。わ。り。と。そ。

○尚風ハ山陰山陽の所。こ。ま。ま。ゆ。り。て。山。ま。ま。り。と。寒。ま。ま。り。と。か。い。ん。

○義作國圖

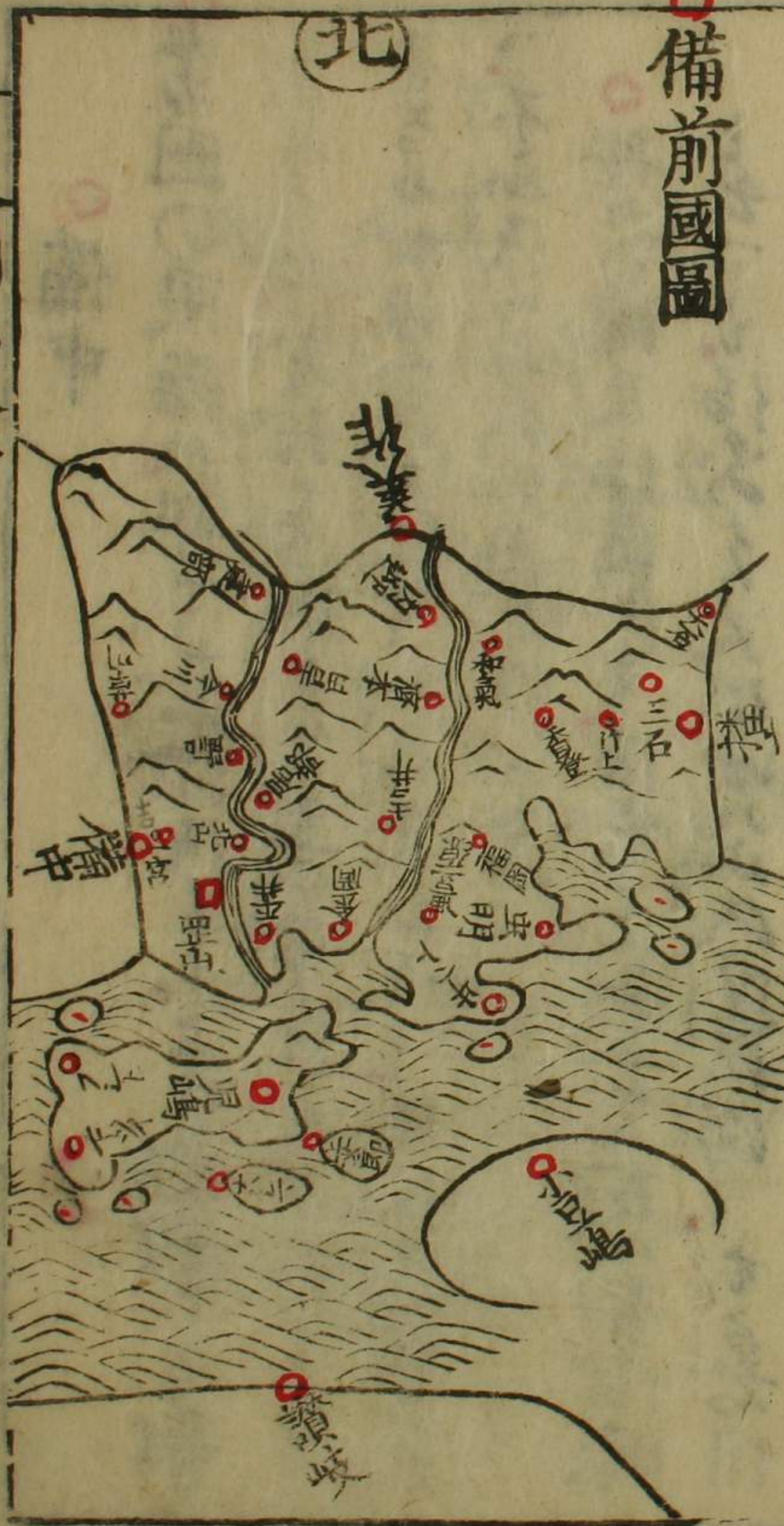


備前

○當國の風俗は上下ともに利根を先として。成り
 とまよきよ依て。言ひのお違するものあり。利根
 偏心はよくして。上へはよの好み小治ひて。内心ハ
 ころころにさげすむ。傍多。主人ハ威と張て下
 とおまへんと。彼友ハ主と欺因ハ皆私心あり。祀
 ごとくを御風ま。去れども都て智恵あるもの
 上と飾り風多。又十年も後。まことたは。最
 さるる。凡そ其のあり人さうと。

○按に當國ハ山入深く。海邊と抱たる。寒暑も中和との暖なる。

備前國圖



○備中

○備中の風俗ハ都て意地はなり。上下男女とも勇
 氣ありて。義理を勵ます意氣にあり。これとも
 異なる心ゆへに。厚理を尚む。但備前備後の如
 い。不仁はくろみの風ありと云。

○按備中及備後とも。備前と一なるを。古ハ吾備國
 と云へとも。備前より入は。備中山久遠に深。を皇國
 ありと云。

○備中國圖



○安藝

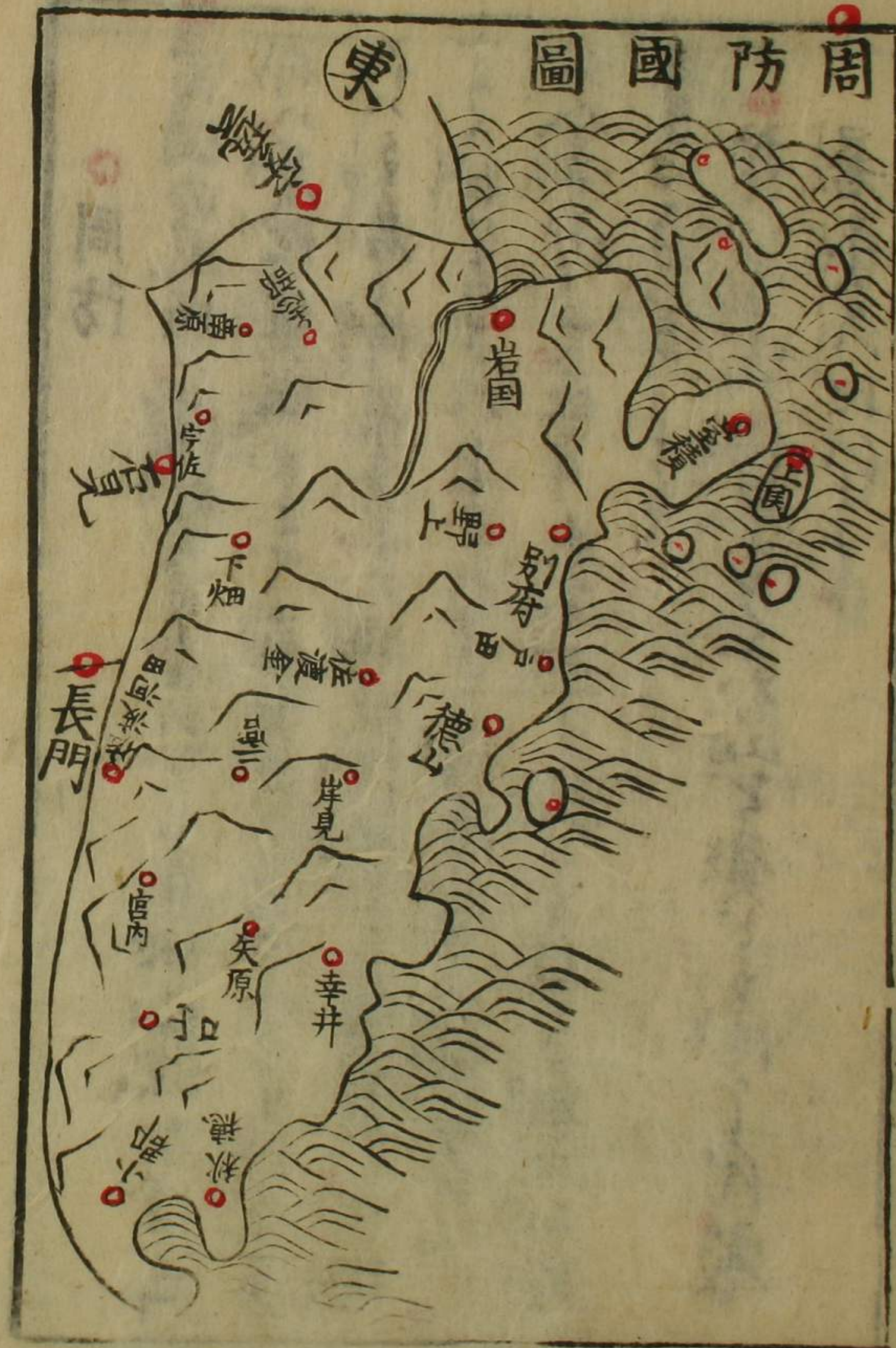
○當國の風俗ハ生質実多風をまきと氣自然
 と獲しく。病人ひてて。人をしてたぐ。人の善惡ともに
 判らざるや。己くが一分をもちる風なり。依て。按群
 なる人少し。世方の潮を思ふ。やうなるを。頼りけふ
 ま。強まれば。度。素ハ。實多。う。死れ。善。不。多。し。
 殊。依。伯。沼。田。賀。茂。の。人。健。而。す。二。心。表。裏。の。風。也。
 ○按よ。尚。雲。ハ。海。辺。な。れ。と。三。方。山。か。と。南。も。山。
 山。多。く。秀。々。自。ら。り。國。を。是。故。に。壺。の。

國と云。風俗各別ありと云えたり。云暖。云多。云
 山。湯。多。く。都。暖。温。多。く。何。者。南。ハ。回。雪。の。大
 山。あり。北。ハ。山。陰。の。山。中。に。江。海。の。潮。漲。る
 有。自然。と。凡。ま。和。ま。る。民。俗。ハ。一。國。中。の。風。云
 小。よ。れ。り。

○安藝國圖



人国言卷下



○長門

當國の風俗ハ。方角ニ兵掛たるあり。人の若声も下
 音上調りあり。人小麻ずりにも一思案して
 怒り風まき。更よ人たのまかりて。幸甚處たるを
 勤といふも。進み疾けれも。まゝ息惰の手あす。
 同武士の風俗。若く云難し。

○按に。尚北西の海を憂たり。む南西も海濱
 あり。海に風氣をばたり。依り寒風
 烈し。雪も赤山に均し。

長門國圖



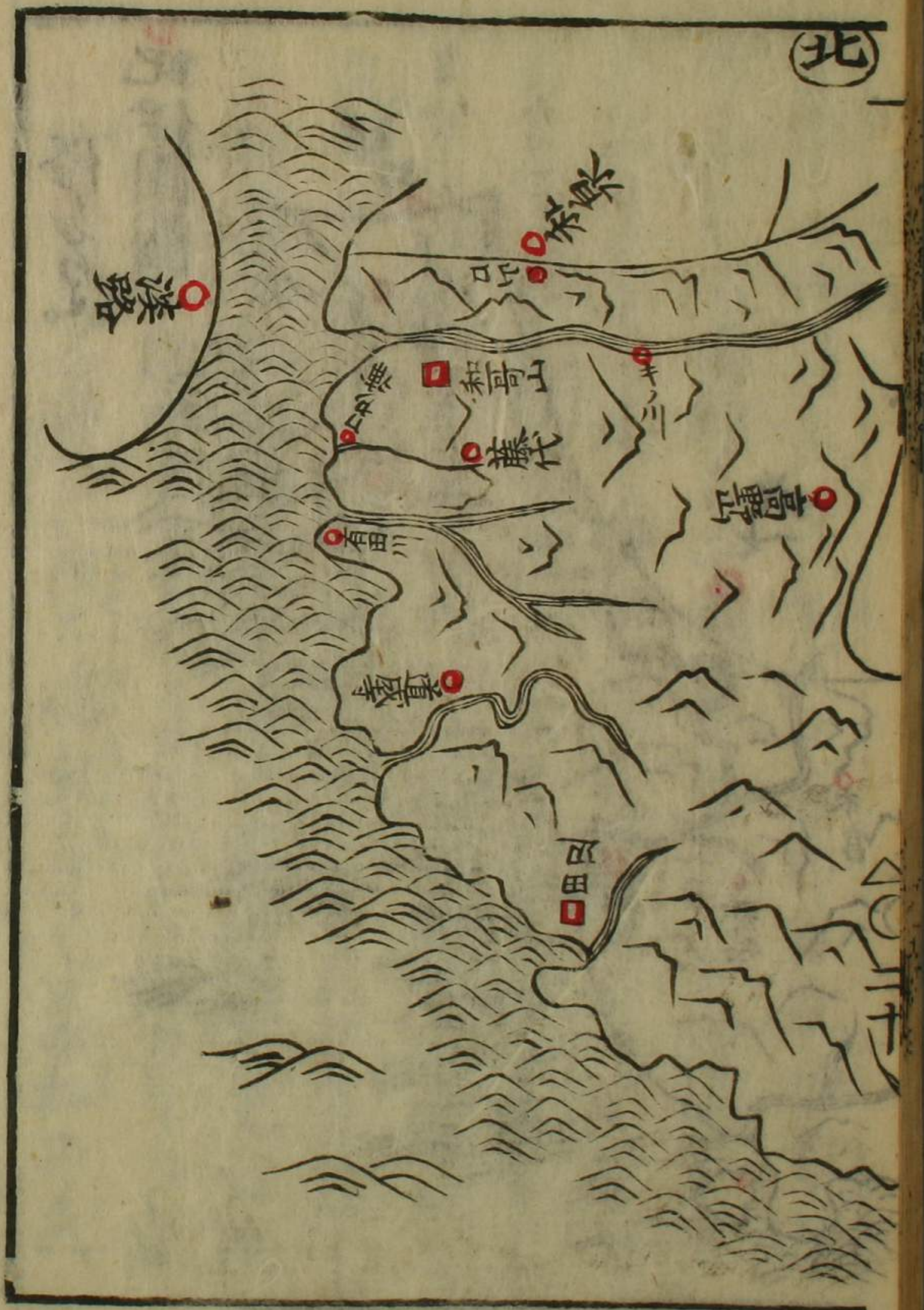
○南海道六國

○紀伊

當國の風俗ハ不徳義ヲ一不しく陽氣甚賤く
 上下を貪り上下を侮り法令を不用就申
 牟婁日高在田郡ハ我慢多し言地を強きると
 思ハ又弱しく浩ら糸の奥意不極譬ハ昨日敵と
 多し人今も今日ハ従ひ又先に異愛あれハ己一分
 の一揆を企の敷あり此故少や郷々に名己彦司と
 号して一分に二君とまらう治業の乱の時をよりと

國巴卷六

一〇七



淡路

當國の風俗ハ遠海の國ゆへ人の氣健なり。何事も仍あり。譬ハ親類縁者と申して其節めを正し。縦貪婪乞丐の者あても。尋常の風を正されども。初て怠惰からしめて。志まらぬおく。愚屋の多あり。民士も。実義ハあれども。達人の少あり。あつたあつたあつた。

按に。南玉ハ紀伊河波の島の海中の窟あり。田辺等海所にて。むすあを。憶男と廣田あり。

南方ゆゑに晴ふに似たり。民俗柔弱なり。
 了。志まるとまきねども。孤鴻なる如く。実義ありと云
 えられたる。

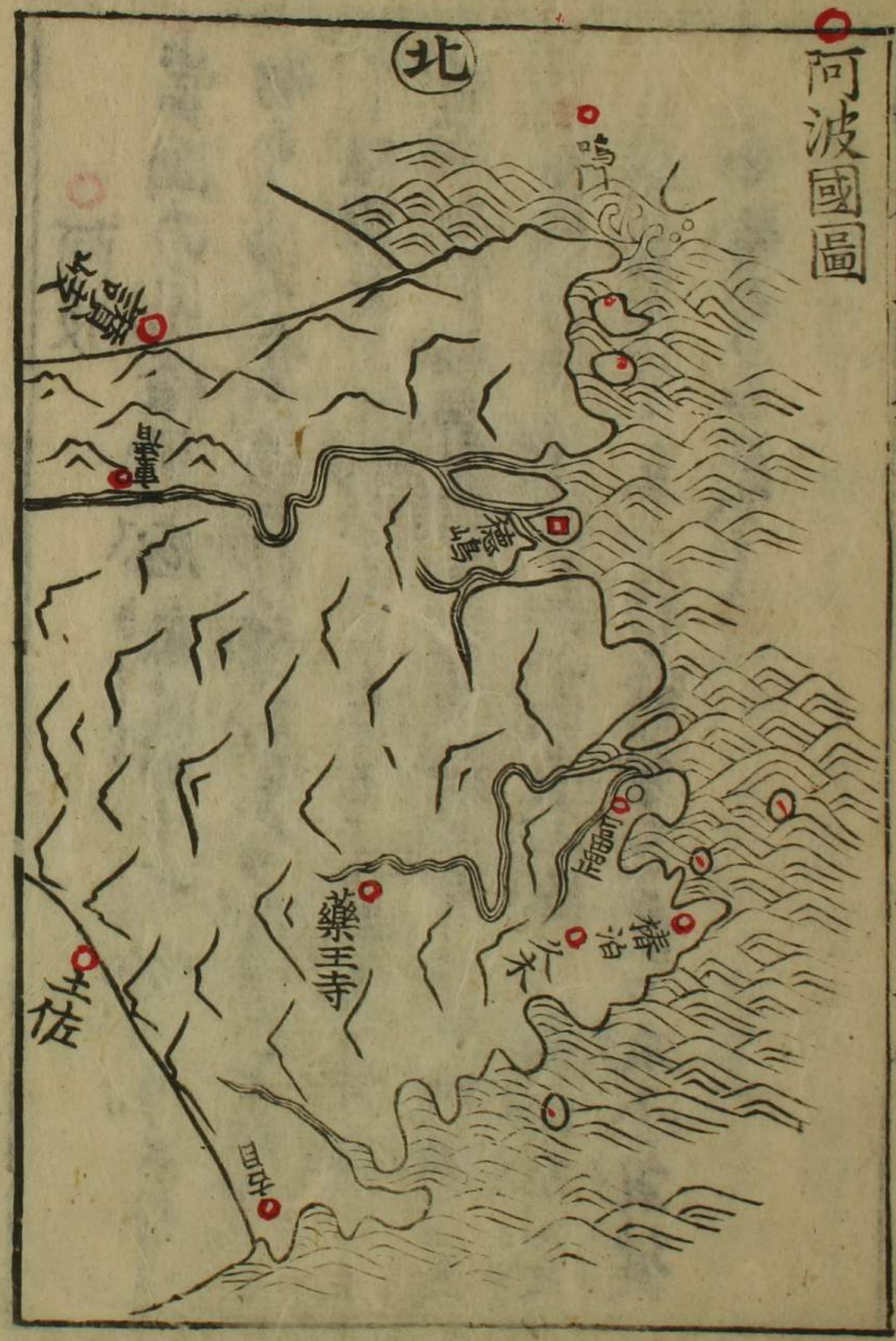
淡路國圖



阿波

當國の風俗ハ大底氣健なり。知あり。されども。
 知ありゆゑ。要道之河津等あり。人をたぶら
 ず。強盗をすり。難の事あり。む意地強し。
 勝浦那賀板野河波長馬郡ハ。心細欲と云。
 按に。尚且海岸。東小向負山。南海有。宛
 瞭氣あり。東方の黍氣を要る。故に氣健
 小知ありまらぶ。

阿波國圖

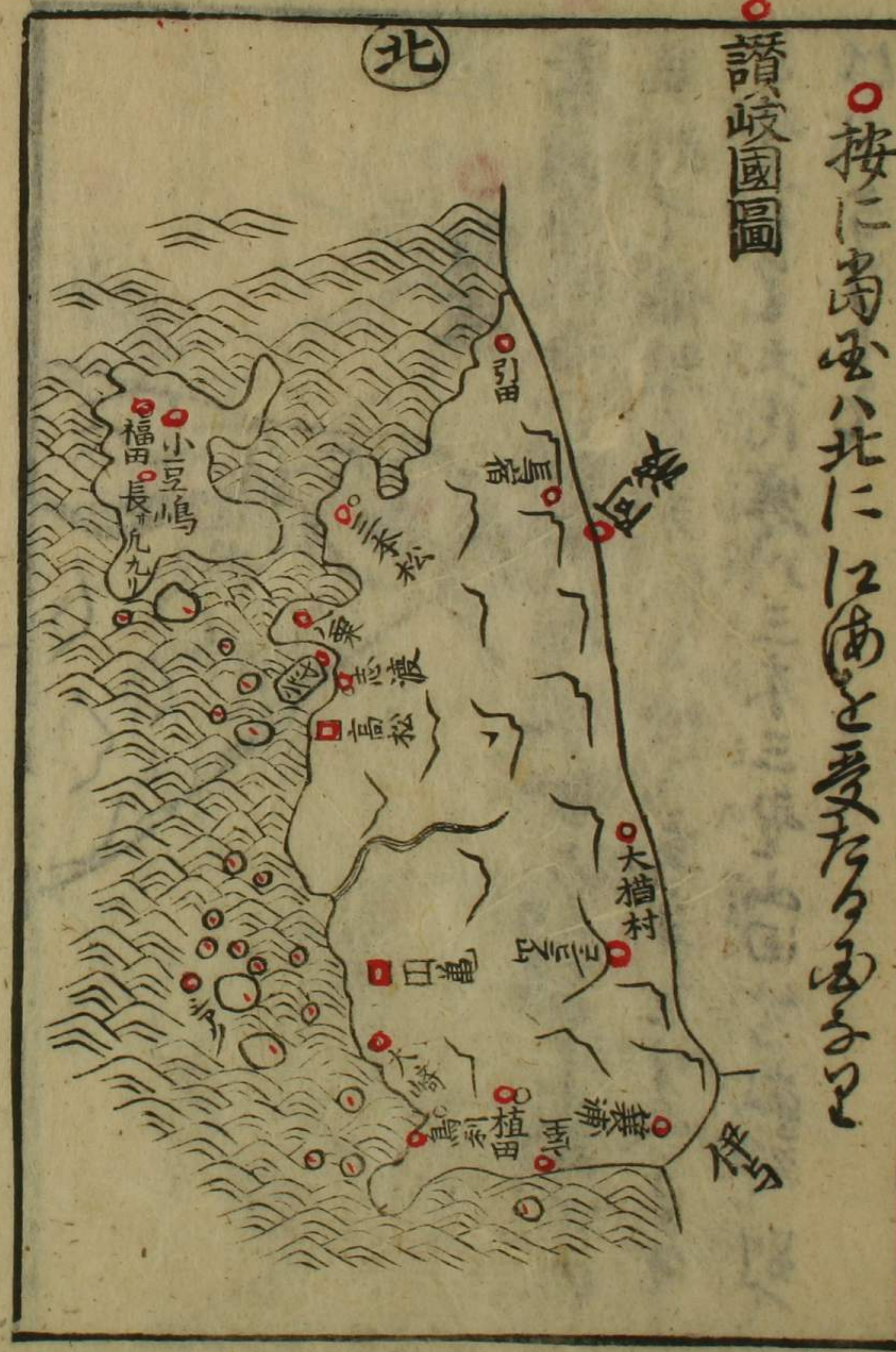


讃岐



當國このくにの風俗ふうぶくハ氣候きこう強弱きやうじやく邪劣じあつの人多ひとおほし。武士ぶしの
 風かぜ別べつて強つよく。方便ほうべんを以もつて立たち寄よるをすべすべとす。
 大内おほうち寒川さむかゝ三木さんぎ三壺さんか山田やまの等ら叔那すね別べつ
 風かぜらうらうとす。

○按に尚必北には海と交たるとあり
 讃岐國圖



○伊豫

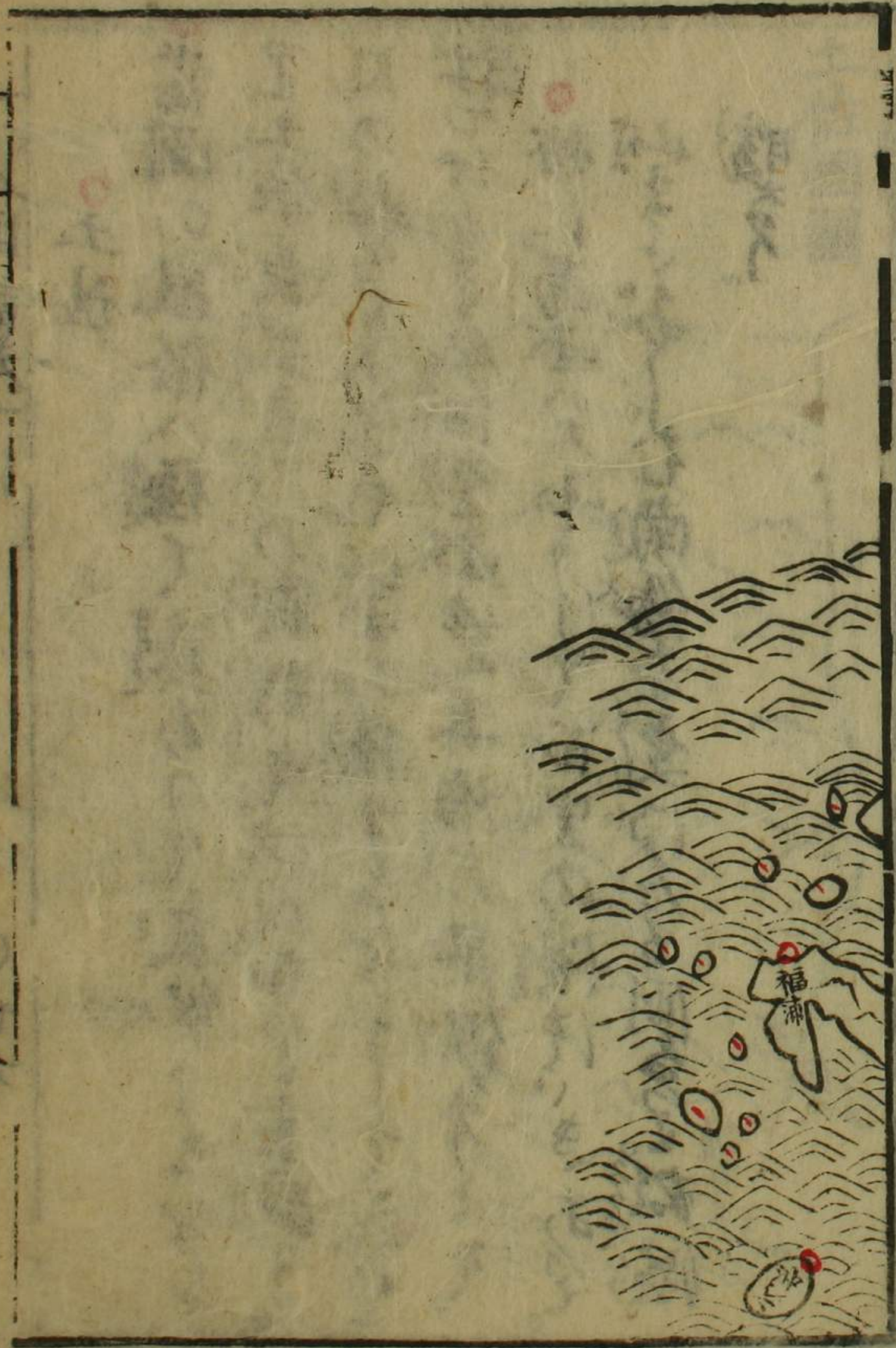
○當國の風俗ハ大形半分に別れ。東七八郡ハ氣
 質柔うて。實義強く。西那ハ都て氣強く。都
 實ハ少く又ゆるき。古よりけほハ海賊満て。往
 來の舟をあやまたのり。伊及のよ不慮。今をなを
 後黨を立て。一列を立。汝族多。後ハ關東の強
 盜け玉の海賊回。業うて。武士の風俗。一版てら
 う。とて。其及。味。あ。た。た。り。あ。さ。風。あ。る。を。
 東の世。とて。も。け。風。愛。ず。ま。り。ま。り。を。

○按に常山太師のてむはく多し。故に其
 も亦くかゝるに何也。むはくは西也。

○伊豫國圖



Handwritten text on the left margin of the left page, including the characters "山" (mountain) and "川" (river).



土佐

○當國の風俗ハ極まことて真ありて。氣質きしつすまふ事
 王。土佐長とさなが里吾川りごがわの郡ぐん別わかては風ありと。香か献けんも。
 風の移うつりものあや。け玉けたまの様ようすまふ事。て。氣きを
 仕つかつけよき也。但たをふゆ。其その語言ごごん早はや催ひらありと云。
 ○按おに。尚なほふハ大玉おほたまありて。百里ひゃくりの濱しんは。いさあき。
 山やままま。む南海なんかいを夏なつは。るの岡おかあり。故ゆゑ温ぬく
 暖あたたかあり。

土佐國圖





西海道九國 附二嶋

筑前

當國の風俗。大庭飾多し。人と各々の心か
 ち勇も一應不勤れも。かざる風ゆへ終ふ何事
 も成就せぬ。但九列にめぼし。花奢の國か
 ら。海色好人おほ。親族の厚さあり。我たあ
 に。ほむ人ふちあるさかふ。凡そ。甚る。我たあ
 梅に。尚更。西を。山も亦多。風土温
 和。く。暖。古。右。

九玉の及燃のな存ありて。是を西都とい
 ひ。乾中博多の津ハ異國の船津ありし
 加外の玉よりハ風波かるともいへ。人の生る
 家をばたらふまて。物ごとさやとある者あり
 むとをうはらきねともえり

筑前國圖



北

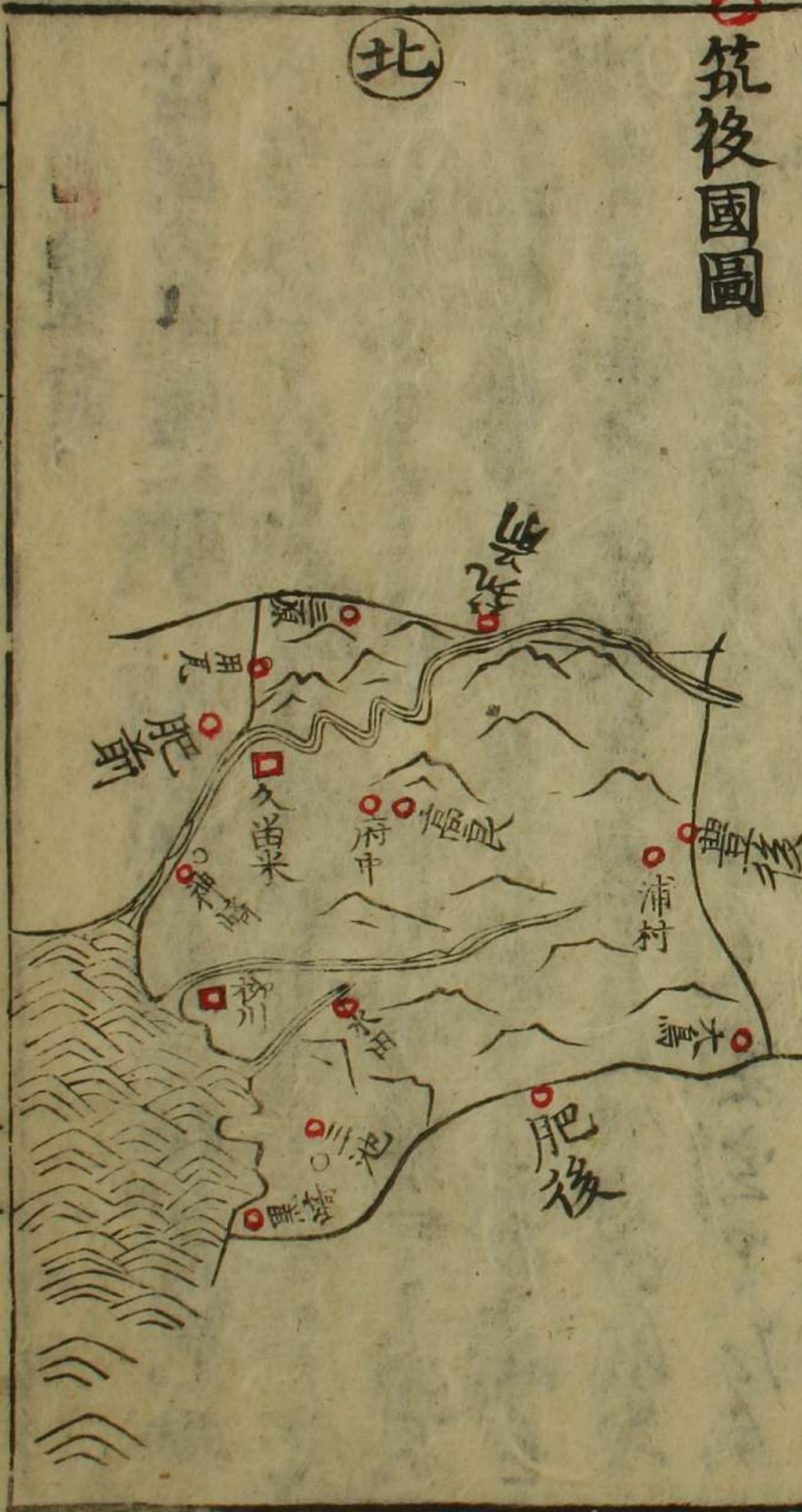


○筑後

○當國の凡俗ハ筑前より。実義あり。常に義
 理を謀り。得失をゆたし。費を惜で。言清小飾
 の鮮美然とも。下人の一涯りて。理法を弁か
 のすくなく。を神の事のおほし。譬ハ其堅固お
 り。鉄石とよとも。これハ鉄より。堅くして。石の
 其煉りより。ちりて。りて。二交合り。あり。し
 と。ちり。志も。け。風よ。か。和。あり。と。あ。り。し。と。も。
 ○按に。南。山。筑。前。お。隣。と。し。も。入。海。と。う。け。て。大

う。山。園。た。り。あ。る。と。な。凡。俗。も。引。ち。り。と。見
 え。た。る。を。温。暖。の。あ。り。と。

○筑後國圖



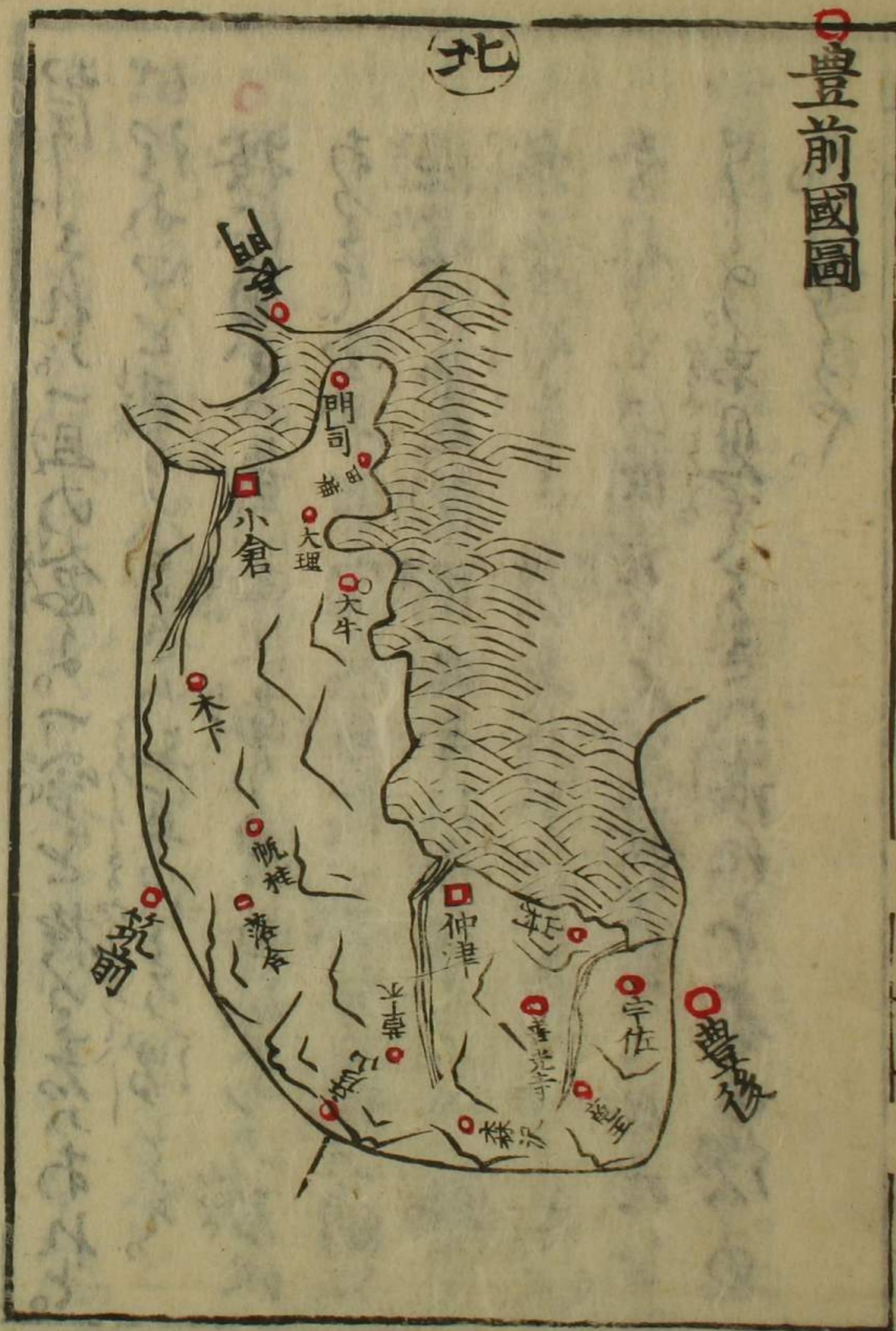
○豊前

當國の風俗ハ譬ハ馬の如シ馬に名有る曲
 馬あり色この毛不あり長高く極みうろく
 色不結るのど。結ども曲ある時ハ用か。結ふ
 るに比れハ曲るのど。曲るに走あり止あり。踏
 踏あり其曲あり。中氣あるをされハけ國の風俗
 ハ中氣の馬の如く。其氣あるをされハけ國の風俗
 意地あり。死生を論ずる場ふありても。老を
 不知るもわねど。理を捨て命を惜むのづらむ

おぼ。されハ。一旦の念よ。一念と捨る者ハおれと
 げ理ふ。心と用り人ありハ。其氣あり。其氣あり。

○按に當國ハ長門向にあり。其後筑紫の如く
 ありて。其馬と云るに。流に。一曲あり。形の國
 邊境の西也。民風忠義に死して。一節の
 念よ捨る。其氣あり。其氣あり。其氣あり。其氣あり。
 考れども。け國古の人。其氣あり。其氣あり。其氣あり。
 せし。其氣あり。其氣あり。其氣あり。其氣あり。其氣あり。
 其氣あり。其氣あり。其氣あり。其氣あり。其氣あり。

豊前國圖



豊後

當國の風俗ハ。氣を稟一所偏塞ちる。其の
 十。一も若に生た。ハ備屋の内より出生ゆに。堅
 固まり。比。扱聖座を子の子をまびくと宣
 一。世家をせん。子孫断絶する。を以て。人の
 ハ。理を不弁。一。出生する。子。殺害する。ゆ。た
 一。今。は。風。を。と。た。と。東。世。に。も。れ。め。の
 一。一。の。氣。を。ゆ。其。死。を。不。厭。子。我。の
 如。別。て。武。士。の。風。俗。也。此。適。は。備。を。

肥前

○當國の風俗。山陰を合たるより。武勇氣ありて。武勇に至りて。義を知りて。ひまむを。海軍の風土を生むると云々。百人小入。はれなまれば。その介め。さやうなる。武士の風。杉の如し。只湯和の志。さうさう也。上を教下とめらる。そののみに。舎を捨つ。と。若くは。新なる。百姓。野人。男女。不遊。罪科。死に。むと。い。毛。奴。余。とおむ。象。風。八。信。別。同。く。新。八。た。

ら。音。聲。野。鄙。多。又。人。の。和。す。信。州。八。及。お。べ。う。の。と。

○按に。尚。必。八。及。必。を。上。結。尚。必。に。隸。す。多。う。ひ。く。山。も。又。多。し。尤。暖。ふ。多。し。民。俗。本。善。洋。之。中。古。龍。造。寺。隆。信。の。氣。象。能。回。風。を。生。ま。す。は。た。り。と。有。馬。郡。下。松。浦。を。と。八。遠。て。松。浦。が。が。た。る。あ。ま。ま。八。風。も。あ。八。か。り。り。め。る。べ。し。松。浦。郡。の。内。は。屬。し。五。嶋。を。と。海。上。を。る。陽。を。

五嶋



西





日向

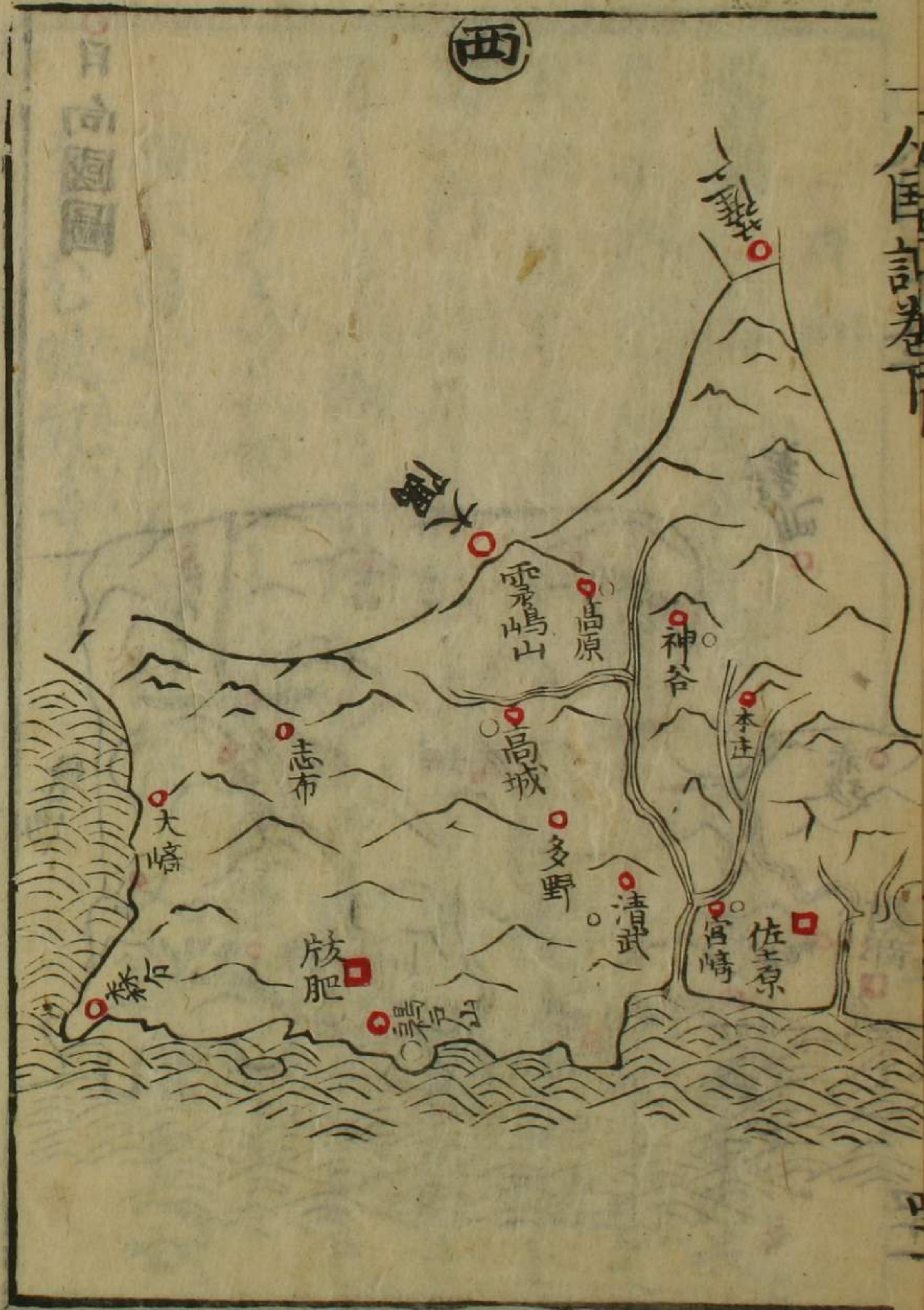
當國の風俗ハを神を法のまのまに傳く。只氣の夾
 るる小任て已う理とる時ハ非と云人ありと云ふも
 初いざ。只と理也ハ亦二うして其法ハ人とは傳ふ
 及い。終よ付果すの類なる凡まうと誠ハ偏甲のあさ
 ましきより人傳の道理を不志と欲くへさるる
 唯死するをひて若とるのみ。危き凡倍恐るべし。
 ○按に南島の凡と海濱深く。又山中深き大木
 るり。を暖氣多し。

日向國圖

西



日向國圖



大隅

當國の風俗ハ。是も死を以て表す。男子たる者ハ死する道とおぼえ。五常ハ一箇外のみとおぼへ。佛は死後の所を去り。生死のみを憂へと自見して。常も主下の化法もみえてなく。ことと云存の事を念。福を受りとことと云へ。百姓ハ地味りのを覚えて。不礼の行法を承て云に不足なり。戦場も捨て。死するも。忠義の節。美のと云工史あり。戦も勝てハ死をなすまづとのこと。是ゆ。泰平の時ハ。主人危死するに。従者勝を

日向國圖

四十一

或ハ是とのぐ。自後難後する類のり。ほむおほ。
未代とも。け凡ちるへーとそ。

○按に尚玉山と海ありて。海中へさしおたる玉を。
種子海屋久の島と云。南海の大嶋に必に属す。
む暖玉を。民俗本書に詳あり。

大隅國圖



そ



○自大隅佐多崎指種子海上十八里 巽
 ○指屋久海上二十里 南



○薩摩

○當國の風俗大隅亦も遠よりありとそ。

按に當國大隅の地小江浦を隔て北亦八保山を
 負酒海を受たる由り。甌洛長良海九海系
 とつ家を海峽南西の隸る。琉球も南西に
 所庸は四時の字略多。民俗本喜にける
 ごとく剛強なる生然今の世にいそりまて強なり。
 孝に床の上に病死するを憾とて殺伐の場
 に死を遂るを自以て本意とす。子孫もこれを

榮名をせむ。此令の思子の戲海ふりて。かの
 芳を恥辱とす。其父これよ死をすむる。其の
 おほしとて。誠よ死を恐れざるハ勇猛なれども。
 理心を勤弁をきふと迷憾あらずや。海島の
 凡俗尤も移りぬるべし。

薩摩國圖



西



九嶋 自口永良三十里



九嶋 自口永良三十里



西

自口永良三十里

人国記卷下

四十五

(西)



○壹岐

當國あつこの風俗ハ遠海とほうみなれども物の産うま奈な有ある。天隅あまぐし落おち
 靡まらう。くろく海うみとまると人の氣き果は弱じやくる。おほおほほ。実まこと
 ありおとありとそ。

○壹岐嶋圖

(北)

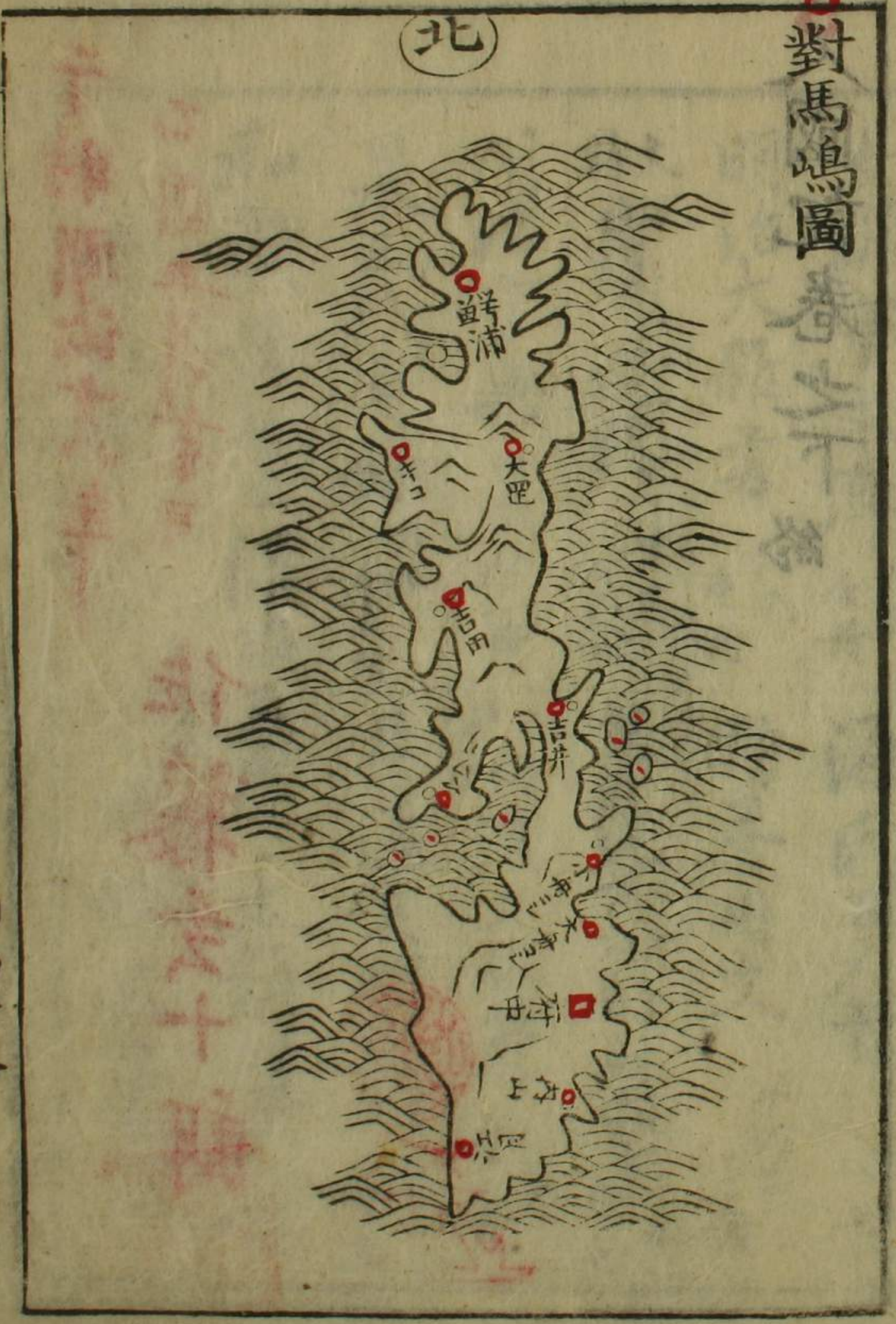


對馬

當國の風俗壹波と同化ありと云。

按に壹波對馬西國とも肥前島の北にあり
たる海中の嶋あり因匝等あり伊弉山を壹波
ハ肥前名古をさすり十三里對馬ハ壹波の勝浦より
里甲八里乾の牙より皆北よりなる國ゆへ寒あり
對馬ハ對馬寒國雪あり是より朝鮮へ過路海
航又ハ八里あり

對馬嶋圖



于時明治十八年

乙酉五月吉日

佐藤玄十郎



人國記卷之下 終

女訓寶文庫

大本 壹冊

源氏百人首

壹冊

明治大雜書

大本 壹冊

贈答因文

半紙本 壹冊

文 山陽遺稿

中本 全六冊

萬國地誌略略射圖

中本 全三冊

明治字典

中本 全一冊

中華漢文軌範

中本 全三冊

日本三代實錄

大本 全五冊

菩提真州字引

橫本 壹冊

和漢諸先生法帖石摺手本類製本

素林堂

中野莊藏版

大坂本街松屋町北八

